

風節

折多留

字編

五十篇ニテラス

1147  
49





門 へ 9  
番 1147  
卷 49

九十五編  
あり



法正院日可居士百回記追善會  
文政九年丙戌正月廿四日江戸浮世小路  
百川樓而開卷

兼 忠臣藏 義士復讐正傳雜說  
題 譬喻

松石居評

應のちがらハ案のめざりなり 柳亭  
忠義の龜徑若くは落ふ玉 松鱸  
りやある相人一一の物小令 可楽



門 9  
番 1147  
卷 49



法正院日可居士百回記追善會

文政九年丙戌正月廿四日江戸浮世小路

百川樓而開卷

兼

忠臣藏

義士復讐正傳雜說  
譬喻

題

松石居評

意のちがらハは案のちがらなり

柳亭

忠義の龜徑若端を落ふ是

松鱸

りやある桐人一一の物中令

可樂



かまろゝ義を列國へ分けぬ  
 叶  
 山科の田地智恵の権を蔵  
 伊  
 此別家のふゑ某藩までおえり  
 帆布  
 冠の寄り 髻く 烏帽 子麻  
 三輔  
 太後の義えもきり 天川 庄  
 貞龜  
 孫讓 仲孝 女房 愛でもおえり  
 鮎長  
 口十七 亦又んの字のて川 庄  
 小丸  
 石の <sup>モイ</sup>まを 同者も変てみる  
 柳亭  
 いろはの 假名も使たまが尻と持  
 全

齋の御代 齋の御代 日六 齋の御代  
 一之  
 席を中 輝 齋の御代 行たがふ  
 佃  
 丸 脛 月の白く せはらぐ ぬ 亥  
 屯  
 志の仇 月と ききく 雪で打  
 雪下  
 光陰の 西 脛 目 干く 汚 絶 坊  
 柳亭  
 障子の 書 子 せん ぼへ 名を けし  
 梅鳥  
 城の子 障子 けし てる 夏 芝 子  
 柳亭  
 おろし の 人 ながく おろし も 子 なる の  
 樂笑  
 肩を 疵 みる ぬ 雪 なる 雪 なる 雪  
 ヤマシ



井の田に新用人を蒔きし  
 大原のむさ子少石と小浪と  
 石碑と義士常規で四角なり  
 富吉かと慶之忠義を如き付  
 天中と大井一画く大遠の  
 商人の各の利を捨てて興<sup>クニ</sup>  
 隆まふ天知る地志る七形目  
 優才のあふの白と影けられ  
 いろはにほふとちぬふ泉岳も  
 管子 貞亀 吳竹 海塵 巨眼 全 柳泉 杜蝶 元住

みのとちみりたにるぬ七形目 菱巴  
 松浦深き音聞ゆる山麻流 柳葉  
 上列の能を煙舟を地切う 巨眼  
 愚のれれ枕付よとて六安藝のこ 佃  
 忠ととましく屋の血をたうん 花鳥  
 飯石の切阻落孔ハ常利を 文志  
 白と垢を屋根あげぬが室のつさ 松鱸  
 美人の能毒と志る本茶歌 柳亭  
 推草か河舟とある二カ屋 管子



穂を<sup>三</sup>法ま<sup>フ</sup> 標<sup>三</sup>も<sup>フ</sup> 控<sup>三</sup>夜<sup>フ</sup> 夜<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> 鷹  
 白<sup>三</sup>六<sup>フ</sup> 中<sup>三</sup>も<sup>フ</sup> け<sup>三</sup> 碑<sup>三</sup>を<sup>フ</sup> 武<sup>三</sup> 此<sup>三</sup> 鏡  
 さ<sup>三</sup>る<sup>フ</sup> 物<sup>三</sup>を<sup>フ</sup> う<sup>三</sup>と<sup>フ</sup> 切<sup>三</sup>る<sup>フ</sup> 法<sup>三</sup>を<sup>フ</sup> 今<sup>三</sup> 上<sup>三</sup> 法<sup>三</sup> ぬ  
 一<sup>三</sup> 幕<sup>三</sup>で<sup>フ</sup> 中<sup>三</sup> 名<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> う<sup>三</sup> 進<sup>三</sup>る<sup>フ</sup> 丁<sup>三</sup> 川<sup>三</sup> 必  
 伊<sup>三</sup> 吉<sup>三</sup> く<sup>フ</sup> あ<sup>三</sup>と<sup>フ</sup> い<sup>三</sup>を<sup>フ</sup> 丁<sup>三</sup> 控<sup>三</sup> び<sup>三</sup>う<sup>フ</sup> け<sup>三</sup>  
 う<sup>三</sup> ぬ<sup>三</sup> ぼ<sup>三</sup>れ<sup>フ</sup> ら<sup>三</sup> 進<sup>三</sup>る<sup>フ</sup> かつ<sup>三</sup>て<sup>フ</sup> 進<sup>三</sup>ん<sup>フ</sup> せ<sup>三</sup>う  
 柳<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> 井<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> ま<sup>三</sup>と<sup>フ</sup> び<sup>三</sup>う<sup>フ</sup> で<sup>三</sup> 丸<sup>三</sup>く<sup>フ</sup> ま<sup>三</sup>み  
 光<sup>三</sup> 陰<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> 丸<sup>三</sup> 辰<sup>三</sup> 目<sup>三</sup> 陰<sup>三</sup>が<sup>フ</sup> き<sup>三</sup>き<sup>三</sup> どの<sup>三</sup>う  
 紀<sup>三</sup> 分<sup>三</sup> 又<sup>三</sup> 小<sup>三</sup> 坂<sup>三</sup> が<sup>フ</sup> 捕<sup>三</sup> ま<sup>三</sup> の<sup>フ</sup> 丸<sup>三</sup> ち<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> ま<sup>三</sup> き  
 八<sup>三</sup> 竹

年<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> 書<sup>三</sup> から<sup>フ</sup> ま<sup>三</sup>ん<sup>フ</sup> 何<sup>三</sup> ま<sup>三</sup>る<sup>フ</sup> 智<sup>三</sup> 意<sup>三</sup> の<sup>フ</sup> ち<sup>三</sup> う<sup>三</sup> 多<sup>三</sup> 居  
 え<sup>三</sup>と<sup>フ</sup> 六<sup>三</sup> か<sup>三</sup>さ<sup>三</sup>が<sup>フ</sup> 出<sup>三</sup> 志<sup>三</sup> せ<sup>三</sup>と<sup>フ</sup> ひ<sup>三</sup>ど<sup>フ</sup> 松<sup>三</sup> 鱸  
 松<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> あ<sup>三</sup>と<sup>フ</sup> 切<sup>三</sup>て<sup>フ</sup> う<sup>三</sup> 事<sup>三</sup> 形<sup>三</sup>の<sup>フ</sup> ひ<sup>三</sup>ど<sup>フ</sup> と<sup>フ</sup> ま<sup>三</sup> き  
 法<sup>三</sup> 号<sup>三</sup> 又<sup>三</sup> 義<sup>三</sup> 平<sup>三</sup> 着<sup>三</sup> 經<sup>三</sup> も<sup>フ</sup> 名<sup>三</sup> が<sup>フ</sup> と<sup>フ</sup> れ 夢<sup>三</sup> 輔  
 長<sup>三</sup> 持<sup>三</sup> の<sup>フ</sup> う<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> う<sup>三</sup> う<sup>三</sup> 一<sup>三</sup> が<sup>フ</sup> 百<sup>三</sup> 年<sup>三</sup> 目 屯  
 百<sup>三</sup> 年<sup>三</sup> 忌<sup>三</sup> か<sup>三</sup>る<sup>フ</sup> の<sup>フ</sup> 赤<sup>三</sup> 牙<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> び<sup>三</sup>う<sup>フ</sup> う<sup>三</sup> う<sup>三</sup> 鈴<sup>三</sup> 吉  
 登<sup>三</sup> 喜<sup>三</sup> も<sup>フ</sup> う<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> 六<sup>三</sup> 松<sup>三</sup> 標<sup>三</sup> も<sup>フ</sup> と<sup>フ</sup> り 佃<sup>三</sup>  
 雄<sup>三</sup> ゆ<sup>三</sup> 又<sup>三</sup> 孝<sup>三</sup> 子<sup>三</sup> も<sup>フ</sup> ゆ<sup>三</sup> ら<sup>フ</sup> 又<sup>三</sup> 義<sup>三</sup> の<sup>フ</sup> 門<sup>三</sup> 出 其<sup>三</sup> の<sup>フ</sup> 女  
 赤<sup>三</sup> 牙<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> 和<sup>三</sup> 法<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> 列<sup>三</sup> る<sup>フ</sup> 平<sup>三</sup> 雪<sup>三</sup> と<sup>フ</sup> 炭 齋<sup>三</sup> 泉



死ぬるまじ 早幼年と 志母後  
洞窟又 七 星の 出る 七 月  
女大も 白無垢 垢を 志す 志す 志す  
物して 何れか 階より 志す 志す 志す  
物形も 何れか 階より 志す 志す 志す  
親と 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
男の 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
花の 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
炭の 志す 志す 志す 志す 志す 志す

鈴吉

狸声

麴丸

全

万小

光頂

柳亭

清屎

富長

少浪の 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
げく 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
甚 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
武又 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
家 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
天 志す 志す 志す 志す 志す 志す  
竹 志す 志す 志す 志す 志す 志す

松鱸

株木

万小

定丸

麴丸

木賀

鈴吉

松鱸

貞外



天理思存 同姓よあり  
 乙卯年の忌日 似多し 二十七  
 天野源一 叶ひ 同知夜 百年忌  
 跡よあり 了 徳屋々 護 何れ也  
 百年忌 百組 妻屋 何て 来る  
 向うかゝ 来る 小提 腕 務 何れ  
 大寺より 石と 口 俵の 身と ぶら 何れ  
 十四日 去年の 妻の かけと とり  
 幸々 少将 警 坂 八 五 俵 ぶら 何れ  
 柳亭

赤梅より 阿房よ 来る 他と 討  
 五十二の 番所を あり 何十七  
 忠一の 引くく くるの ち あり 何れ  
 岩 於 今 原 牛 部 何れ くる 者 何れ  
 地 獄 又 少 寺 寺 警 何れ 状 何れ 何れ  
 勘 平 の 道 台 何れ 何れ 日 一 何れ  
 一 力 ち 何れ 何れ 一 何れ 何れ 何れ  
 伊 智 が 乳 二 何れ 何れ 何れ 何れ  
 炭 の ち 何れ 何れ 何れ 何れ 何れ  
 光頂  
 三捕  
 可樂  
 麴丸  
 扇風  
 小丸  
 寛雲  
 西山  
 溜泉



五歌をたのまははくたふち  
 芋洗  
 夢程か落ちて取くま丁のぬ  
 柳亭  
 万八の小僧お付とあつア  
 楽笑  
 きとれてもイヤ浅きぢやと外科ハ  
 花鳥  
 目れおと海をかぶせとるせつれ  
 楽笑  
 る人の後次鳥来々突てある  
 柳亭  
 喜門ノて妻のうめい  
 梅鳥  
 照月の光りと星かか  
 中うあ  
 カシハ

眠樹園評

右居の 義元も 志る 天川居 貞亀  
 和國よあつと枝葉よ富実と義士 十九磨  
 和の巻はは十七 細人が出来 辻木  
 天竺血冠って由良とそつと匠 ヤマキ  
 末世まで天利よ叶ふ義士の徳 一峰  
 天の理よ叶ひめぞく 百年忌 十九磨  
 義士のころはに難ははも云ふこれ 屯  
 石塔のふれ 又とくは 十七 柳葉  
 衣付お織はまかけやと 願まは 梅舎



海切のふきさく 知まば天の屋  
おのふよ大をうさるニツ玉  
父を子の為よりいへる  
由良を胸に藏持持て流  
去るものさうとかくを義と今を養  
一掉のよ操の男 存  
乾押よ例あり一早よ辟言を石  
善く切る是悟義の肝忠の膽  
新古今のふか喧嘩の行司よ出

岩戸をぬくと戸隠の蓄意と出  
揚うと出ると産も出るととる  
是列と昔我流とよくお討勢  
知意と苦崖と屋六信あはは  
蝶のさき子持と急をぬ  
万松と万昌より首と 網  
蜂拂のあしととれと名を要  
かまると義を列國へかま  
昔年とくしの字をれと先とる

管子

花柳

麴丸

里鳥

佃

集馬

佃

松鱸

金糸

全

川鳥

溜泉

松鱸

梅鳥

佃

要宜

叶

扇風



道悪の高家を悪く言はれり

楽笑

大鵬の心々由良かふりあり

柳亭

極々此まじ<sup>ミサヲ</sup>播も控むおの誓

公

極の下を眼む控むらむらむら

楽笑

山科の能ある誓のからま

株木

野暮を言て散れま吉良の武士

屯

此眼目のりりいでたむら

柳亭

其今の能毒とある本<sup>カ</sup>花家

柳葉

火キノ石ぐ推の害をぶら<sup>キ</sup>はぶ

貞龜

秦のうらうらに十七人かぶれ

一枝

大妻さ袖と押へて淵よ入

三眼

商人も名の利と控て義<sup>ク</sup>あぶ

今

からぐら<sup>ク</sup>青うりあも秘ぬ忠

社蝶

○ 桃の井の方ハいびつで丸くまみ

社蝶

野馬<sup>カ</sup>産のやうに建てる義士の墓

幸司

六名を抱てもしとぬ腹のよう

丸

お侍のた居<sup>カ</sup>産とのみ炭を討

松鱸

豫讓<sup>カ</sup>六名大早<sup>カ</sup>入吞む菰<sup>カ</sup>ら

社蝶



九多美か計畧坊をなれり  
推葺か川舟もある一カ屋  
老 大船少一ッをなれり  
世に言 辻木  
老 史よりくち情き敵の妻ものり  
佃り

負外

船をとりても得事ハ帆ハ想ふぞ  
江戸ハ清兵衛と山原ハおひりて  
力強か津々上船と下船あり  
里谷

二船あふせぬ力強りが大たなけ  
今日の此船も喜ぶるな一カ屋  
杉と切抜の杉もあふせぬ  
死ぬともまづ早急事と老母を  
原直か悪口んぼうと見えぬとこ  
了舟をぬく根の強敵送之  
老巧の業人も炭をくたふとま  
嘉吉ありとらども伊勢屋にさくらり

葛巴  
八竹  
全  
楽笑  
鈴吉  
木馬  
升丸  
松鱸  
佃り



連判よ述ぶも早き描く 端 刀サイ  
 合字さうづめへの字 末 大虎門 英雅  
 二度めのもろ吉の入るるぬ 三 法書 三輔  
 仕立のめのは酒の 多る一 筋切  
 さもさうづめもあふんぬの 鼻ッ付 仰  
 突うくらんむをま色 扎が 毫 全  
 まよまをと 撮合い くらり ある 全  
 下女が尻守きかよの 小衣 正 子 巨眼

我為我評

うき道てもおろるやうなりおろるこ 柳水  
 聖まのまをえかひひとよろく 兄  
 門あぶすの字をく 親お 糸人 妙 柳泉  
 よおの館とくまを 孫や 地切り 巨眼  
 そつろくや あはかかと 松永さ 貞亀  
 ろのくく 芝うま 是の 船よ 首 麴丸  
 女たともあむくま 志う 辰 ちん 全  
 そのときが 大屋もあし ちんを せあけ 砂  
 へし 是の 辰の 辰よ 雪の中 仰



あぢうくそりのまにゆる天月を 管子

おんのお居 岸をのこ 海を香 松下

抄多き 衆を 永く 昔を ちうく 松鱸

早洗より きて せも 早く あり 早洗

寺入を して ちうく くる かる 集馬

由良 鬼の ちうく せも ちうく 一之

ちうく せも ちうく せも ちうく 松石

ちうく せも ちうく せも ちうく 早牛

ちうく せも ちうく せも ちうく 巨眼

ちうく せも ちうく せも ちうく 花鳥

ちうく せも ちうく せも ちうく 松鱸

ちうく せも ちうく せも ちうく 佃

ちうく せも ちうく せも ちうく 木賀

ちうく せも ちうく せも ちうく 松鱸

ちうく せも ちうく せも ちうく 佃

ちうく せも ちうく せも ちうく 松鱸

ちうく せも ちうく せも ちうく 佃

ちうく せも ちうく せも ちうく 三輔







お方のとちてまへ身子やり 赤奴  
桐を切のち岸形やとま替や 松鱸  
みのとちうみのとちあふぬ一カ屋 菱巴  
舎と養と遊んとまの恩よりへ 佃り  
一棹のよたとちまのり 男 豊

貞外

あおたけが海井とあつ一カ屋 管子  
これのへ給をいふせてやまあせはれ 楽笑  
さりとまをたもあつとちまでまあれ 丈志

あひこちうとちてごんせう癒が出来 音丸  
金かちるまへらんのかちうさせはせぬ 貞亀  
赤屋でち同席をまゐる年たちち 迎茂  
光陰のみ形ゆ干と後地坊 柳亭  
地獄とあひまてん状を田とち 扇風  
起る前と並ぶ健由とち一多知 柳亭  
み形目を院の目で包む麴町 三朝  
たうちちをいふまてんのはまあふ 九齊  
茶舎の女 柳岸身り 柳亭











松と流りて雪の夜の山麻流 風松  
着板とちを拵む目ざら存ヶ是 樂笑  
松切よあつて山波と幸始也 叶  
忠とと粥の挽まを音を却し 丸齋  
眉間 疵局の擽の遠よかり 芋洗  
奥方の良業きくぬ眉間 疵 杜蝶  
女房は出入忠人が髪と切り 梅鳥  
兜の目利 漁舎の八幡産 仰  
大皇のよよまきつる天の川 松石

忠信と後と光悟の漸左馬 風松  
総色忠文 名を賣りて義とまうけ 山石  
答を無し出入嘉穀と書出し 叶  
イロハがこゝで奥の間へあひ込 全  
後の規模 擽と約とよく較ぶ 刀井イ  
改更よ入れ千金よ替へぬ ち 仰  
中心まを 拵ぬぬをるよ彫り 痛泉  
炭紙屋で起り久々さ 禿の福 株木  
甕より 番のきい 惣摸様 竹溪



角ふまのふ知牛所へ引とらせ 佃り  
 捨る身へ下人も忠の搥拵 錦魚  
 搥拵と拵よゆ先途と凡 風松  
 却路をわけていろはの 全  
 雪の影 振舞ふ 粥も 奥陸の花 井蛙  
 秘密の狗よ 風よ いろは 飯名 風松  
 天道と見ても 忠義の 大芝居 可笑  
 浄場がらと 巻と 巻へ 初ま 擲り 麴丸  
 首洗ひ 井戸で 早め 汲わげり 佃り

天巻と 全巻 肘の 公家 高家 帆布  
 山科の 田地 智恵の 拵と 拵 佃り  
 大骨 折って 巻の 羽の 皮と 巻 音丸  
 正月の 其の 形よ 赤小豆が ぬ 麴丸  
 靴 押よ 倒る 早尻 壁せ 石 佃り  
 引方で 弛きも 米の ちと 張り 山石  
 まの 魂の 大石が 九寸 みる 菅子  
 大義の 亀 燈 發端の 村が 忌 松鱸  
 筒は ちと ちと ちと 玉と 賣つて 全 叶



聖又耳塚のほうと家老迹  
 年たの所又足懸る町飛御  
 風軽でも多く晒落でもく泥黄土  
 兜音葉の吹りて改布と急  
 掃塵屋の小方物見世も手テダテ術ダテ之  
 十處の聖の擲わたりまで割きれむ  
 大年記うと忠臣の花作り  
 雪又警坂声あらし形なり  
 長持のうと今年か百年目  
 龜  
 麴九  
 風松  
 集馬  
 壽山  
 風松  
 麴九  
 風松

矢同ガッたままを抜でうと後砲場  
 突からんむと氣キきれか突ツ  
 馬兼息子切うけらまの雪と舟  
 逆足又立揚抜を殉死州伝  
 獅子のあふあとで年紙又狐舞  
 互又巻を揚うわひ幾ッあふ  
 おかきと風又吹れてる赤改中  
 梅下らんぞらむぞらんきヤレ  
 伊吉の役その姿見か目又揚り  
 風松  
 佃  
 巨眼  
 青志  
 梅鳥  
 佃  
 木賀  
 丸  
 丸  
 十九丸



あつむ石きぶりて警らき人てり 一枝  
梅先とまきて仕合猪首あり 子安  
引船と夜目意目あり 曲水  
尸大佛とあまらうとて深とあり 迎茂  
用人の病と自判のそ負て 松鱸  
角を傷とひらううとて後者が仕 株木  
万八の小信衣討とあら 楽笑  
兜とてあひ道具とひひらめ 迎茂  
乳母とあま廣く館とさぶる 松風

○カゆか陰と上履と下履あり 里谷  
がらきうと知ってがてんの入地酒 松鱸  
○五門しめ裏のつと叩いてる 梅鳥  
動平八二交目の門で縁が披 万小  
りうしてもの周帳と泉岳ち 柳葉  
おつ子かまのぬ入と相摸者 松鱸  
ヨモお令ハ纏くまの腮で蠅 株木  
シ系色 厂<sup>ガツ</sup>カ<sup>カ</sup> 三<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>女<sup>メ</sup>者<sup>者</sup> 杜蝶  
義士<sup>義</sup>の後<sup>後</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>口<sup>口</sup>況<sup>況</sup>と<sup>と</sup>切<sup>切</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>を 柳糸



老  
あふたの蓋と初子取れた四位まで 麴丸

川柳評

○ 義々きき〜又た法も軽かたむむ 山石

○ 義の血筋末世傳くも天壇を 辻木

○ 走馬をくわくつゝ敵の妻も新り 伊

○ 物いもば同〜きよぶる武意 全

○ 法取がよ奪とり味い〜地名 全

○ とう〜更らぶ信義と播ま百回忌 杜蝶

○ みふかぢ〜と萬世の伝名を付し所 巨眼

○ 赤穂陸入れり〜と 伊 捌き 砂

○ 義の文字も俱不載天の利よ叶ひ 曲水

○ 此別義のふきき美満手志中えかす 帆布

○ 志良のふりん法初の清家流 株木

○ 揃うと出〜と霞も 出る 新 川鳥

○ 揃と霞出〜るよ 大 登 川鳥

○ 松の年回イ十か〜と十ヨき〜 山石

○ 扇を〜と初〜と 掃る 青志

○ 笠を〜と初〜と 掃る 青志

○ 笠を〜と初〜と 掃る 青志



此書腰武蔵人二百の月の跡 英雅  
 義士と地利武具と天の利の事也所 雪下  
 是國とものより日本への伝名も本 早牛  
 杉垣へ伝きると モウ 知れぬ 不 井蛙  
 さーかいつる岩窟と蛇が 岩ヶ 杜蝶  
 名越くと呼んでみる 二月堂 柳亭  
 感とてもある天の利ある義の強さ 迎茂  
 去りの六跡うらむと今上巻々 佃  
 大さの伝へ其角が別まの 白 里谷

天巻と今巻時の公家さるあ 帆布  
 照る月の曇りとほりか輝らせ カシハ  
 モシをゆく杉の木の切所 松鱸  
 血連唐の出現不と義士の切り 一之  
 大さる死して二君の徳を摘む 巨眼  
 伊達を通じて大木をさして引キ 柳亭  
 残りの京へ天野座を説く伝松 風松  
 石指しの名とよむを義士の墓 帆布  
 松永のちびと喰くものろは花 松鱸



み平江の当所ふとみんは十七  
二輔  
義心名も久々の天川や  
白哉  
三年と幸望君臣の九子み分  
青志  
美の強升假名の終りよ事果テ  
巨眼  
よう松が時菊はるのふ菜づこ  
富長  
法号よ義平普徑もろか  
夢輔  
方丈の身も且形のめさま  
麥仕  
冠りのあも驚く馬帽子  
三輔  
半らで矢田も矢次も討て  
伊

○ 大まき納と押へて細へひき 一枝  
○ 百日十一世をある仇とうち 山石  
○ かのの外男の手平義の一字 三輔  
○ 武者猛々く徹く寛の陣 伊  
○ 右臣の義元もまると天川や 貞龜  
○ 寺入りと勇しくまるとある事 集馬  
○ 横川も堀敷も深い忠義あり 伊  
○ 日本を味あやまのあか木植屋 柳糸  
○ 捨る身へもあのかかん 金奥



中のもちが怪しきもの吉ちる 松鱸

田々浦か如く切て入り 巨眼

名も本線の海をて不破長村 今

一持のうま 操ミカドの男彦 集馬

茅野のはく忠孝の及 園女

牛込と牛所寺々 歎 柔方 可笑

おろき生まじらち 軽石み希を不 柳亭

た糸舟もせむ 初なる志書の元 三輔

一ツ家のつとをよぎ くら 後 俵

本流の筆の意のもの 魚遊

底中であぞと 幸を明して 梅鳥

長持のうとと 今年か 百年目 屯

飛ちて天婦魔もあはぬ 赤穂垣 柳糸

あはれおとけ 傳へても 輝ぎ 小丸

言海 苦むを 移来ちあふせ 夢輔

拾便 手書 乃むお死の陰 伊

士の文字と 十一 柳亭

西園の 見せ物と 志士の 文虫











名くぬいそりーんせん松の花 佃  
枝るぬく葉や弘誓の船廻ー 風松

あめれいのさきとをまらね

まどくと晴あまあー雪解川 柳亭

折か下やひもろく梅よきの経 管子

武彦野よ摘て 権主 松鱧

多向ん 筆つたたま

假名手本後會二度目の清書

立評勝負并四十七人總評通り句

忠臣藏後日清書  
戊七月十九日附 鶴九樂評

務時と假名書あーて務か忌 芋洗

務時とあー山科よ懐まう 叶

春年の侍代のさ物と鳥帽まそ 元任

石よ物とよ帯紐で君と身護 芋洗

備のよの由急切とせ六柳のさきレ カシワ

柳の本と切とく君よ解んかあー 柳亭

君よふあるくさ忠士も沖の石 麴丸

忠臣の正目致まかんまうま 松鱧



猫ケンの石切も是些のきケンと云  
 苦むせど名を深きぬ老翁の碑 巨眼  
 ありくを先人きえたる老翁のツ子 株木  
 馬名が口十七の白と切り 夢輔  
 後集と揚を断 養のうらぶ 叶  
 手肘をきあぐるまよ陣と 張 雪下  
 養の強井七去の和の妻と去り 柳泉  
 恩老の世とまうて養と終び 佃  
 を和の古井が幸の記り七 株木

唯かき一かか少おのまよ吟巻 青志  
 水空の美人と付も笑ふ日あ 魚交  
 杉本へたき馬は逆勝甲斐あさ 力シワ  
 掃の門出く大石よ名と終一 貫雨  
 海をくく塙やへ古子ち養の 柳亭  
 七龍目山夢お終一八まの 亦楽  
 赤猪兜の部と塙丁の底へ張 風松  
 塙をまら下の露返りち大井父子 株木  
 其の末足初で吉良 次 ぬま 迎茂



美よ曲つて直物よ言せしれ 佃  
白書院紀わど深く口惜さ 夢輔  
老 彦守の娘おらうよ慕ふを  
ぬかみまうとくさのみとくま 夢輔

柳亭評

イ 精<sup>考</sup>の備へて美まの夜討り 管子  
口 補の門出くたふよ名をゆー 貫雨  
ハ 鳥下での合衆よら十又ま 水魚  
ニ 揚の武と香車一かて突うア 芋洗

ホ 揚田が仕込ぬ私用をりれ 一之  
へ 丸腰でちとをうこめ狭紙 和鳥  
ト 呉後うと出さ白子垢ハぢまのまれ 佃  
ナ 芳しく功無今日の萱ゆらり 株木  
リ いろはがきては信の首と取 定丸  
又 歌のよ懐知れこのも葉の陽うら 梅鳥  
ル ぬうとぬ仇打ぬ月あまの夜守 金成  
ヲ 揚の仇を引をさる彼の紋 扇風  
ワ 龜井の弄拵とらづまぬ心あり 貞龜



カ 淡中 中直子 葦の矢田 矢取 巨眼  
 ヨ 上野の松枝 切てくけつ ける 松麴  
 ヌ 忠と智と主親と名のふまを 持 静壽  
 レ 十日 白眉 用さて又 十日 日 南豊  
 ワ 只席さし 香が少ねのきふを ぞ 青志  
 ヰ 己の仇と未よ 討て申よ 切 一之  
 子 七百八十又 草鞋のやうなれ ぞ 凡  
 ナ 君よ 不きまのく 忠士の 沖の石 麴丸  
 ラ 鹿の弓 箭 津用 ぞ 至行 燈 静壽

ム ふくろ ねと 相と 工匠 かなる をつり 巨眼  
 ウ りんそ 毛ウ ね安 衣具よ 彼の 平 今  
 井 お書と 堀 新 鹿と みる 力 強 凡  
 ノ まつ け 如く おを だ せと 鶯 籠 芋洗  
 オ 横 瀬を 張つ 目と かな して 舟 カシワ  
 ク 依 名の本 す ころの け 筆 書 又 迎 茂  
 ヤ 一方の 仲 長 ちやく あの人 柳 泉  
 マ 雪の 底 根 承 知 下 今 繩 附 して 梅 鳥  
 ケ まげ ぬ 掛 ぬ 蔭 ちん ちん 玉 ころ へ カシワ



フ 麗よりもさそそ舞の早心細の至 貫雨  
 コ 甲入の衣よしけおの首をーゆ 集馬  
 エ 玉より後地ちのニ夕七日 佃  
 テ 周よ後地當のさの令か出来 芋洗  
 ア 五段目八人のさそそを門よ立 梅鳥  
 丹 親らやものさそそめさそそを 亦樂  
 キ 角さそそが後地舞えんて大とちり 一之  
 エ 井中を仲夜喜三六とちり 株木  
 ヂ ちめて大縮細皺の首つてま 麴丸

三 窓まもも兼て衣付と極月 今  
 シ 金とむさがりいんちゆうつとたれ 花鳥  
 上 上列さ人さそそと結候方 雪下  
 ヒ ちり後地よのまれ言長計書成之 文志  
 モ 家老のあふ出入とさそそ坪の完 かしら  
 セ 義よ國ト後地ちも指のさそそを 定丸  
 ス ちりもさそそを後地ちとさそそを かしら

川柳評

六 國のほとぬ さぬ 清 仁 改 叶



千歳新列國の法士義士心  
 迎茂  
 義の強廿七去の如く妻を去り  
 柳泉  
 若よふ妻を去くハ右死も仲の石  
 麴丸  
 芳しそ切りしハ右の墓中より  
 株木  
 妻の死後衣は義士の衣とて  
 木賀  
 所結納の折ふら似ぬ程も  
 株木  
 和達の忠良目と信し眼をひよき  
 老菜  
 町まき妻命をかくさる忠と孝  
 風松  
 水魚

若むせど名々垣のれぬ右義の碑  
 巨眼  
 大甲の振ぎしハ又廿ぬ義中より  
 叶  
 毛きくうで廿八巻 抄み 抄  
 花鳥  
 度及右程何名を教し和分の教  
 老菜  
 三三三三 水の抄りし 香の件  
 芋洗  
 和のまを切つてをま 編みか  
 木卯  
 泉岳寺江戸へ去く日の一ト名例  
 虎声  
 かり胸あつて謝教と胸をすき  
 松鱧  
 ひとすけハ先ツ指抄の教 ちりり  
 佃



ほろろかへし〜も焼のアス聖なるまき

佃

三河をゆると栲川先よたち

梅鳥

ぬるして安井後井ふあふり

叶

あまき〜がが少おのまよらん

青志

皮とむき〜く〜いぬぢやく

柳泉

血判牒よまらせ穉まイス

風松

炭でうつまでハ火をきり水をきり

鵬加

養又曲ツ〜を速助よ害せられ

佃

初吊六寺坂が級目なり

菅子

喫よあ〜たよ〜と〜とをせ

貫雨

いろはの首尾と部幽〜あ庭新

定丸

ふと喜りてはよまッのも君の為

夢輔

柳洲〜う書の衣の内んごされて

南豊

唯唐のふえり抄月十日日

近茂

加養川よろく赤を堀の大庭ら

巨眼

よ野よ松枝切てうけつける

松鱧

序届ハタベイもタベイデモ先序〜慶

株木

とらま〜と海と香せて墨をぬり

カシハ



焼籠より向ふハ芥子也 極の下 麴丸  
 之毒ありハ糖よりして酒と香 南豊  
 一ノ味糖黨を解を法く毒を去 文志  
 名も似ず 蒸餾もやう毒を去 定丸  
 別れて歸る 下ノ毒れ大が 虎声  
 角を湯が 後家 舞也 大と成 一之  
 おひ習って せんやとこの 地どり 貞亀  
 ともうしとをふ 何んを 押馬 木賀  
 官殿ハは位 藤まきで 六厘ご 雪下  
 丁ちんとニアつ さげり ち布 多 播 伊口ハ

出齒一 扇風四 木賀四 木馬四 花鳥五  
 管子五 佃六 魚交六 株木六 柳泉六  
 虎声八  
 添削のころよ二一の土間ハ割レ 風松  
 カニ二 文志三 松鱗三 泉四 叶五  
 風松五 賀七 集馬九 柳亭  
 摺の式を香車一本で突ッテ 芋洗  
 小丸三 扇大尾 青忠大尾 佃四 目佛四  
 元住四 貞亀六 夢捕七 雀九  
 椀を枕の森が くりハ大野父子 株木



定九一 亦樂一 龜一 雀 亭 川 柳

君よ不意あくば忠士も沖の石 翹九

花二 風松三 鱧大 菅八 亭 川

勞して切る千日の 萱野あり 株木

株一 貫兩一 和鳥一 亦六 川

幾勺もど仮名をわづる 和家の家 老菜

芋七 和七 賀九 亭 川

上野よ松枝さるくかけ付る 松鱧

翹九一 泉 三一 之大 静養 亭

吳狼くく出く白玄垢ハぢききれ 佃

扇三 叶四 鱧七 雀 川

美の強さ七玄の外で妻を玄り 柳泉

鴨加一 菅三 扇五 叶八 亭

焔くくわく桐を内匠がわをまもり 巨眼

文志一 イ只二 兩三 花七 亭

いろはが寄って四位の身的首でえり 定九

扇八 木馬九 花九 老菜九 亭

一力の仲居才やくわの人が 柳泉

壽一 升九一 菅一 青一 文九

君恩を雪と天の地助 カ雪下



金一青八雀川

美よ曲ッくぐ壺助よ害せく色 佃

迎茂二株二芋九川

大屋の根ざうハ見せぬ紫竹賣叶

定五金成五巨眼九川

一味徒堂と勝をつゝ裏長屋 文志

光頂六眼七カシ八川

嘆よあさ大よのりて喰せる 貫兩

小二眼三文志四亭

搦田か仕組近松間をいれ一之

賀大花八雀川

杉りく丸を湯位ぬあいのるさ カシハ

梅七之七住九亭

園は鉄炮のてのあいなる末 芋洗

鱧一管二升五雀川

石よあつても帯紐で君をち獲 全

青二定二水魚五雀川

恩老のさぶあを切ッて美を結ひ 佃

老二迎四升四雀川

忠臣の正目めくくもめん文字 松鱧



カシ一 芋二 齒五 壽七

をい 役名をい 裁とて 評定 雪下

佃二 泉二 風松四 賀八

やま 堀 船も 築 城の まづ 用き 麴丸

卅三 花大尾 齒同 鵬同

風よ あり ねと みる 女 獲 為 文志

兩二 虎九 仏九 カシ九

それ まうで 八只の 寺あり 泉岳寺

住三 西五 虎六 株八

「放 坊より する 眼うろく 八かろく」 風松

カシ三 仏五 いろ六 文志八

四位の 身の名を 知らば 役名 迎茂

髪一 頂三 川

和漢の 忠良 目をかく 目と 冥キ 風松

亀二 雪四 川

雪さそく 赤の 松よ 雪の 竹 芋洗

虎大 文志同 川

五判 とうりょう 徳多き せ 襟 札 イス 風松

梅大 眼六 川

仍 吊あり 寺 坂が 役目 あり 菅子



龜四 南豊七 四

皮をむきくくうぬ奴ッぢやく 柳泉

水島 眼八 四

不<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>顔<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>このも<sup>レ</sup>煤<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>明<sup>ア</sup>日<sup>ス</sup>も<sup>レ</sup>き 佃

頂一 文水七 四

背<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>備<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>で<sup>レ</sup>美<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>夜<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>え 菅子

眼一 泉七 四

飲<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>このも<sup>レ</sup>茶<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>湯<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup> 梅鳥

龜大 壽同 四

美<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>感<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>指<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>入<sup>テ</sup>る<sup>レ</sup> 定九

元大 豊八 四

ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>と 鶺鴒 芋洗

佃七 泉八 四

竹<sup>レ</sup>表<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>仲<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>表<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>八<sup>レ</sup>ごと<sup>レ</sup>と思<sup>レ</sup>ひ 株木

木馬一 和三 四

恭<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>代<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>烏<sup>レ</sup>帽子<sup>レ</sup>首 元住

集六 頂七 四

虚<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>偽<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>娘<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>ね<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>する 賈兩

佃一 交二 和二

精<sup>レ</sup>忠<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>刀<sup>レ</sup>夙<sup>レ</sup>桐<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>葉<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>落<sup>レ</sup>し 巨眼



住 一 水魚三 之六

石も磨く六世を照る士のかぐろ 松鱧

卍 一 花四 イ口九

いろはの首尾を都路へ子花御 定丸

水魚二 株四 升六

そ強勃ふ卍舞巻も 乱拍子 小丸

叶二 文志五 芋六

赤珠の由来天下よ傳ふ 忠 松鱧

文水三 亀五 逆六

只七も冷汗多がる 明海 宿 金成

逆大 木馬同 卍四

紙をりも毛成撫てあく額 疵 文水

小大 頂同 雪下七

あを仕切くろくろ 森くす大一座 亦樂

叶大 重丸 梅丸

仕中をあくまて刃せ中さんと 鶴籠 和鳥

住大 小丸 青丸

さるきだよるもさる 尻へ下女根燭と 巨眼

頂五 カシ六 仏八

清く書くいろは点くろ 文字ハをシ 青志



小六 青七 齒九

いとむべーそ前表を蜂ヶさー 佃

定九六 亦八 佃九

せんちうおりてふのくねる狼流シ 木馬

鵬七 老八 齒八

移むくハ江戸ももきさる村芝居 定九

住七 扇九 風松九

切こきくねね拍子ぬり又孕ま 虎声

交一 梅二

肉傳美士是文と武のかぐろ 升九

この史一佃三のそん入書

簾のす抄でも切りうも ぞ 柳泉

豊二 菅大

星よ折まひのうらみのハ天の川 集馬

賀一 集五

お目ある内家大石のわづけ 麴丸

梅一 壽五

朝桐の晴して霞もそ雨あり 雀丸

芋一 齒六

小石の君が 大石の内捌さ 集馬



文志一 菅六

節用の武門を分るは附ヶ 叶

泉一 カシ七

大学よりバ控役名とやいそん 佃

虎一 イロ七

大石を土着よりは組とせる 老葉

集二 文水八

太郎冠者 てるかくさくぐ諸大名 扇風

齒三 イロ六

いろはのをりり一の字と復へ書 老葉

迎三 麴四

雑水ハ不忠忠美ハ粥とくひ 貞亀

交三 鵬五

七段目山葵から一ハきく 役 亦樂

菱三 虎五

引乃すぐ口のすくまる 泉 岳寺 光頂

株三 金六

軒荒と位居も不破の教古集門 賈雨

イロ五 水魚七

内通、家の府と、とそいろは附 木賀



金三株七

杉も菌をうむ 裾の袖 下 亦樂

鵬云 羨八

忠死でも吉良の叔末の名は知れど 風松

豊大 文九

のぐ鏡すうーてくまぬを懐 羨捕

和太 文志九

炭敷登の出合が美士の天尾ん 小丸

芋と四 壽四

麻の中異國の狩も一本のり 一之

イロ四 菊五

上野と上野のろはど身を仕舞 柳泉

小四 亦七

狂所よりの海さよ 管の壺 木賀

梅四 麴五

獨樂のうす茶よろをる山麻流 文志

小五 麴五

大さハよづ門中をこーづー 風松

住五 文志六

羽二をへ狭砲疵る二葉さぐり 全



之五 兩六

清潔ハ漆ヨリまじりて塩ヲガキ 佃

カシ五 賀六

若狭ヨリ井戸の跡でもまじり屈 迎茂

文水五 升七

時あけぬ紅糸石碑へ向山 鵬加

菱五 鱧九

ハ右事ハ外科ヨリ及ぬ見立あり 貫兩

芋五 叶九

赤穂塩ヨリまじりて熟モノヨリ 文志

扇六 頂八

簞を多く鉄炮さげり雪の客 梅鳥

住六 水魚九

口書ヨリ拙者ハ上へサ返す一と 出齒

赤馬七 芋八

本筋身つめ警り坂へかき 令 集馬

辻七 金九

不忠の親子猪で死犬とあふ 叶

佃八 水魚八

警りつめりてハ馬の口ヨリ 梅鳥



迎八之八

門裏ハ殿辻書ハ天子を返メ木賀

定九頂九

わたり又旦一と冷ふ居ハ升九

集一眼二風松二頂二之四一

梅五 雀 川

松の木を切ラで公<sup>キミ</sup>ニ篇ガあ一柳亭

辛三叶三文水四亦五兩七

杉葉三、初ノぬ雪乃よつむの穂全

賀三眼四菅四木馬五株九

四三

田樂下紙園よかろ六段目全

花三扇七

比翼うゝ鳥の羽へある墓<sup>イ</sup>多<sup>イ</sup>全

以上四十余人数詳通るる記

○ 楽許考九帖

かき序のや柳は括ぶ名乃ま似

文政九由一 七月完



